令和８年度熊本地震
保健師等チーム（第１０班）活動報告

八代市 YATSUSHIRO
”子どもたちが誇れるまち 八代”





令和８年１０月２１日
健康医療部　熊本県派遣職員報告会

大阪府保健師チーム　第１０班
池田保健所　　すぎやま（保健師）
吹田市　　いいだ（保健師）
地域保健課　　おおにし（行政）
藤井寺保健所　たけなか（薬学・食監）

令和8年熊本地震

【発生日時】　令和8年7月28日16時27分

【 震源地 】　熊本県熊本地方

【震源の深さ】 16km（暫定値）

【地震の規模】 マグニチュード7.1（暫定値）

震度7　宇城市、氷川町

震度6強 熊本市、八代市、宇土市、美里町、益城町、嘉島町

【人的・住家被害等の状況（消防庁情報：10月5日12:00時点）】

死者38名

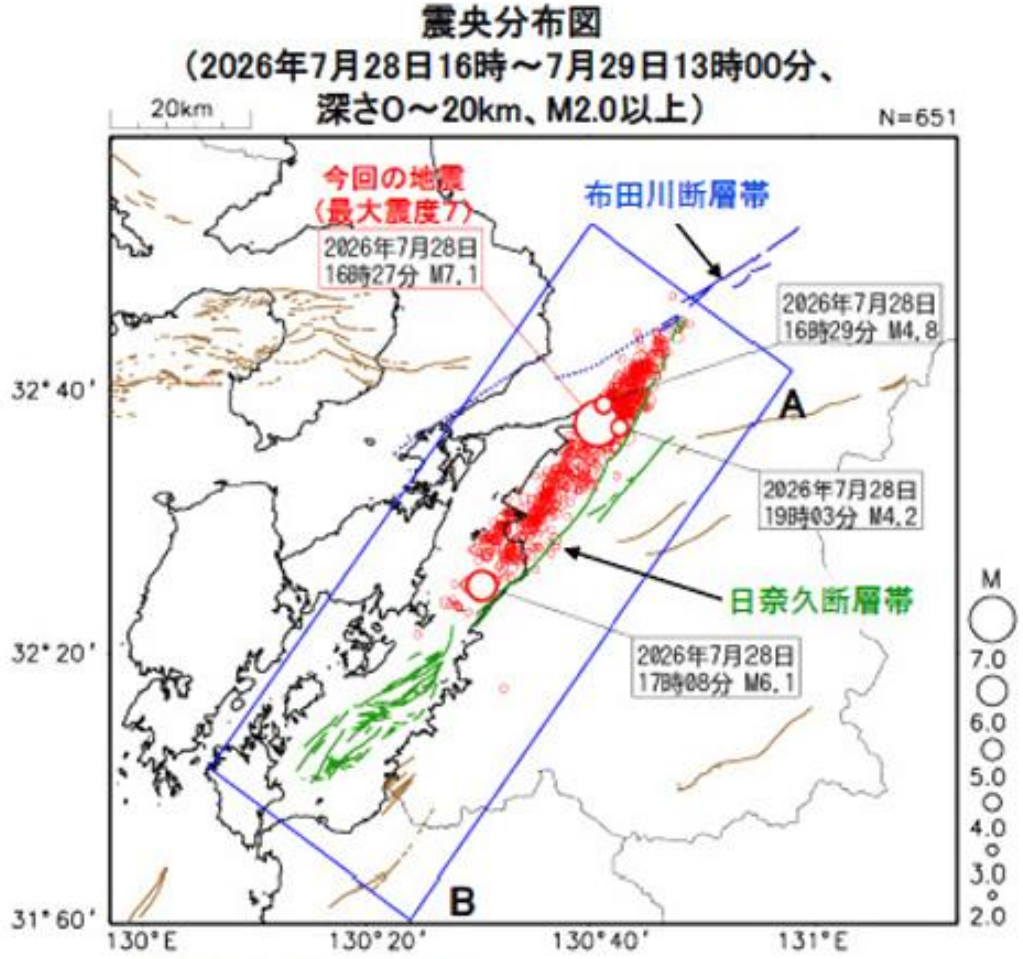
八代市20人、宇城市3人、嘉島町7人、甲佐町1人、氷川町5人

災害による負傷の悪化又は身体的負担による疾病により死亡した可能性のある死者2人

住宅被害

熊本県69,594棟(全壊2,408棟、半壊7,802棟、一部損壊59,384棟)

その他　10棟



令和8年7月29日
第3回八代市災害対策本部会議資料

大阪府保健師等チームの派遣

7/31～他自治体6チームが活動開始

熊本市、八代市、宇土市、宇城市、下益城郡美里町、八代郡氷川町（8/1～）

7/31厚労省より追加応援派遣の照会

8/3（現地8/4）～9/1まで 7班を氷川町へ派遣

熊本県・八代市からの依頼を受け、9/7～八代市へ派遣を決定

班	期間	保健師	ロジ	派遣先
8	9/ 7～11	大阪府2名	大阪府2名	八代市（独自ルート）
9	9/11～16	大阪府2名	大阪府2名	
10	9/17～22	大阪府、吹田市	大阪府2名	八代市（厚労省派遣）

＊8班は管理栄養士1名含む

八代市の状況

【人口】　117,340人
【世帯数】　58,104世帯
【高齢化率】　約35%
【保健師】　32名
【 被害概要】　最大震度6強　死者20名
【ライフライン】　停電は概ね復旧、水道も復旧
井戸水の汚染、ポンプ故障等で
利用できない世帯が多数あり給水支援中
【医療機関診療状況】 令和8年9月1日現在　すべて診療中
【八代市役所】





地下駐車場西側壁



免振装置

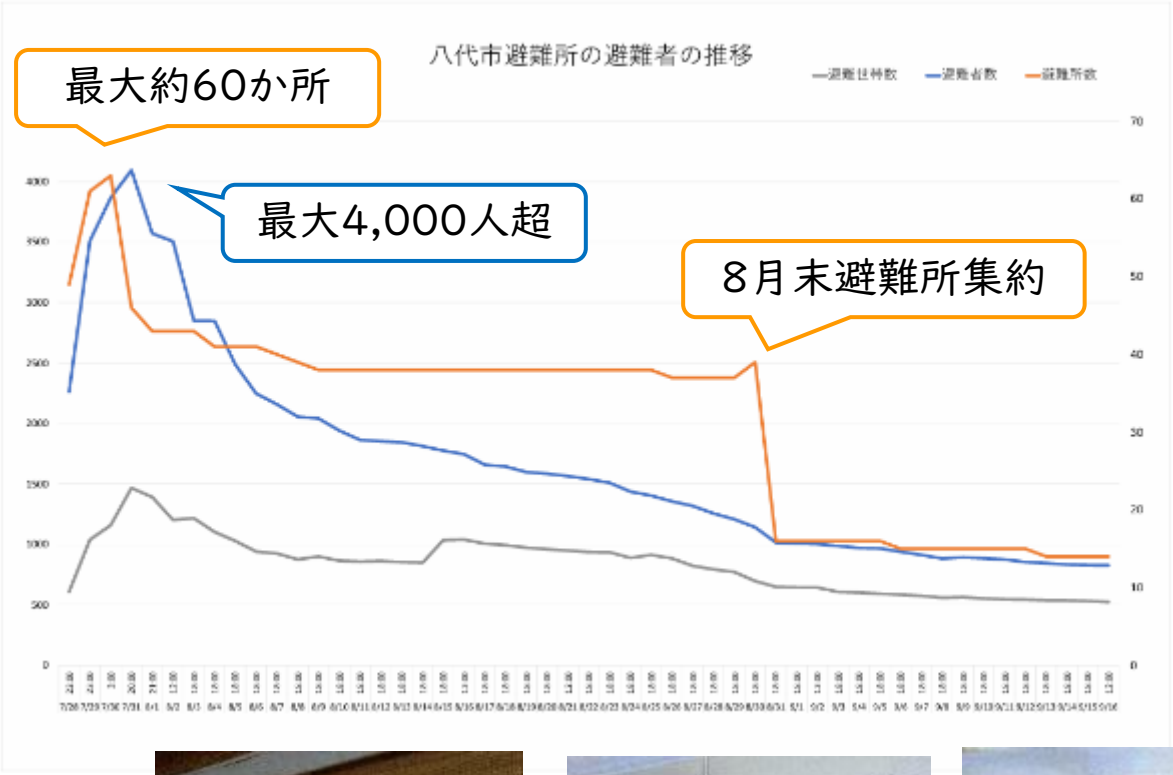




市役所1階
八代亜紀コーナー

八代市　避難所開設状況

開設日	避難所数	避難者数
7/28	59	3,002
8/10	38	2,037
8/30	16+α	1,142
9/1	16	1,047
9/18	14	789
9/21	13	782



令和8年9月16日（水）
第43回
八代市災害対策本部
会議資料

8/ 1 ～ テレビ設置開始

8/10～洗濯支援事業開始

8/17～避難所運営委託開始（一部）

9/ 4～キッチンカーによる夕食炊出し開始

9/ 7～避難所運営完全委託開始

9/ 8～避難所からの移送支援開始

各避難所と病院やスーパー等を巡回

9/18～GENSAI X（ゲンサイクロス　避難所運営アプリ）導入

※9月中旬に食中毒を疑う事例があり、保健所が調査を開始







八代市における保健師等チームの活動状況

【活動拠点】八代市役所 2階健康推進課

【9/18時点で活動中の保健師等チーム】

自治体名	主な役割	活動終了日
長崎県	市の住宅調査に同行	継続
大分県	在宅支援活動取りまとめ	継続
奈良県	在宅支援	9/18
鹿児島県	在宅支援	9/19
山口県	在宅支援・避難所訪問	9/19
長野県	在宅支援・避難所訪問	9/19
宮城県	在宅支援・避難所訪問	9/21
大阪府	在宅支援・避難所訪問	9/21

9/18活動中の支援団体	既に活動終了
・日赤救護班 ・JMAT ・JDA－DAT ・派遣（行政）栄養士チーム ・JRAT ・DWAT ・YMCA	・DHEAT （大分・福岡・北海道） ・国境なき医師団CP ・TMAT ・Japan Heart ・災害支援ナース ・内閣府





八代市における保健師等チームの活動状況

【保健師活動スケジュール】

日中活動

8:30	訪問予定リスト受取り
9:00	代表者ミーティング
	在宅支援・避難所訪問
15:00	市役所帰所
15:30	活動記録作成、報告
16:00	全体ミーティング 個別支援ミーティング 避難所ミーティング
17:30	終了

夜間活動

11:30	訪問リスト受取
	在宅支援・避難所訪問
15:00	市役所帰所
15:30	活動日報報告
16:00	全体ミーティング 個別支援ミーティング 避難所ミーティング
17:30	八代市保健師と打合
18:00	避難所巡回 健康相談 衛生教育（依頼時）
20:15	現地解散

【活動目標】

災害関連死を防ぐ

【定例会議】

＊毎日　9時：保健師ミーティング

＊毎日16時：①全体ミーティング

②避難所ミーティング

＊月曜　9時：定例会議



大阪府保健師等チーム10班の活動　⓪オリエンテーション

9/10　10班～12班　派遣前説明会　@大阪府庁

【派遣主旨】
・熊本地震により被害を受けた自治体の保健活動が円滑に実施されるよう応援するもの
・府や市の職務・活動として、組織の一員として派遣されることを自覚し、職責を全うする

【保健活動の基本姿勢】
・援助を必要とする病弱者への個人的支援にとどまらず、避難所における環境面への配慮、被災や避難生活を支援するためのネットワークの確立等、住民の生活全般を視野に入れ、心身ともに健康な日常生活を営まれるよう住民自身への復旧・復興への意欲を高める働きかけを目指す

【派遣職員の基本姿勢】
①被災地の職員自身が被災していることを念頭に置き、住民への支援活動と併せ職員も支援
②被災地職員に負担をかけることがないよう、支援活動は引継ぎ含め自己完結を図る
③割振られた業務のみではなく、派遣職員が自ら考え、現地の了解を得た上で主体的に活動する
④住民への相談や訪問など直接サービスや環境整備、健康情報紙の作成のほか、情報収集分析統計処理、平時の保健師活動など、多方面にわたる活動が被災地支援となることを認識する
⑤各チーム派遣終了時、活動情報の実績を被災地に報告するとともに、経験・知識を組織に持帰る
⑥活動状況について個人のSNS等で発信しない

【留意事項】
・避難所の住民には支援疲れが見られている
・被災地職員も疲労が蓄積しており、支援活動については原則、現状の活動を引き継いで実施

市職員の60%が被災者
25%の職員の被災後の残業時間が100時間越え

大阪府保健師等チーム10班の活動　①活動概要

	当初の予定	6時	9時	12時	15時	18時	21時
9/17 (木)	午後：ホテル着	新幹線移動中に 10班で派遣終了の連絡			熊本集合移動 ホテル着 打合せ	活動変更について共有 ＊活動方針の決定	
9/18 (金)	活動（夜勤）		移動 打合せ	挨拶 引継 訪問準備	家庭訪問 記録 休憩	ミーティング 避難所訪問	移動 打合せ
9/19 (土)	活動（要確認）	移動 打合せ	訪問 準備	避難所訪問 記録 休憩	避難所訪問	ミーティング 移動 打合せ	
9/20 (日)	活動（要確認）	移動 打合せ	訪問準備 休憩	避難所 訪問 避難所 訪問	記録	ミーティング 移動 打合せ	
9/21 (月祝)	活動（要確認）	移動 打合せ	記録 準備	避難所支援活動 避難者受診調整・同行	記録	ミーティング 挨拶 移動 打合せ	
9/22 (火祝)	午前：活動 午後：11班引継		記録 振返り	荷送り 車返却 解散	約180名アリーナのリニューアル テント・段ボールベッド組立て 体調不良者の対応		

台風22号の進路により
延長の可能性

台風は逸れ影響は回避

派遣終了となり
9/21で現地活動終了

10班活動方針

①安全第一にチームで活動を行う
②チームで共有、相談しながら活動を行う
③奈良県の活動を引継ぎ、他の支援チームと連携した活動を行う
④活動内容の変更など、臨機応変に対応する

大阪府保健師等チーム10班の活動　②在宅訪問

開始日	八代市における訪問実施状況（訪問対象者）
8/6～	75歳以上サービス未利用者かつ独居
8/14～	85歳以上の世帯かつサービス未利用者
8/21～	75歳～84歳でサービス未利用者かつ独居の方
8/26～	1回目ローラー訪問で把握された要支援者・現病歴あり　の再訪問 （高血圧・糖尿病・腎疾患・心疾患）・不眠・食欲低下該当者
9/1～	1回目訪問の不在者で　85歳以上の世帯かつサービス未利用者
9/7～	1回目訪問の不在者で　75歳以上～84歳でサービス未利用者かつ独居の方
9/16、17	避難所退所者でアプローチできていない高齢者
9/18	市健康調査のうち心身不調者

在宅支援活動取りまとめ（大分県）より訪問リスト（紙）受取

事例概要や住所から訪問順を決定

必要な紙資料、タブレット、熱中症ウオッチを準備

訪問（不在時は不在票投函）

記録作成、タブレット入力、活動（日報）作成後報告

記録は紙ベースとタブレット（キントーン）入力を併用



大阪府保健師等チーム10班の活動 ②在宅訪問

9/18大阪府の訪問担当

健康調査の回答者のうち、健康状態の項目に記載があり、

市からの電話連絡がついていない方5名

→3名訪問（不在2名）



◆入力フォームの内容だけでは相談の詳細はつかめない

◆回答時点から時間が経過、既に相談内容は解決済みの場合も

訪問で会えた1名は既にホテル避難済、一時帰宅中。
自宅が全壊で入浴できない、足のむくみや不眠があったが、
現在は通院できている

◆日中は不在が多い

◆雨の中の訪問、車移動のため傘で対応



大阪府保健師等チーム10班の活動　③避難所訪問

各避難所紙ファイル（2冊）
　保健師訪問日
　要支援者リスト/要支援者個人票

在宅支援活動取りまとめ（大分県）より訪問リスト受取

紙ファイル等から、避難所概要や要支援者の状況を確認

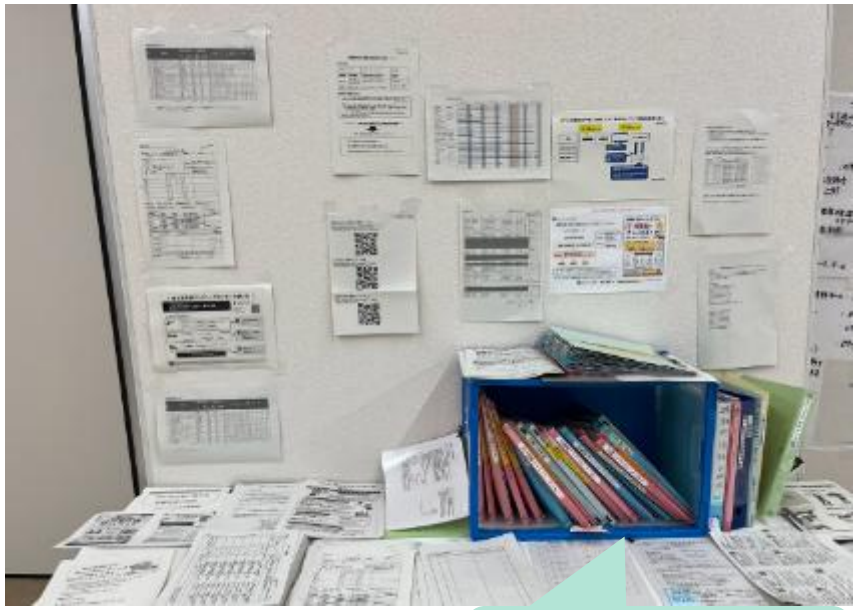
必要な紙資料を準備

避難所訪問（要支援者への声掛け、健康相談、環境確認）

避難所訪問記録作成、要支援者のエクセル入力後報告

まず避難所管理者に挨拶、要支援者の様子や情報交換を実施

日赤との同行訪問時は待合せ→打合せ後訪問



避難所ファイル





大阪府保健師等チーム10班の活動 ③避難所訪問

【10班活動中に避難所で出会った方々（会議での共有含む）】

清潔保持に課題がある方	妄想を訴え続ける方	重篤な疾患が疑われるが受診に消極的な方	化学療法中に体調悪化、受診に消極的な方	その他 ○自宅調査が終わるまで他県の娘の所に行けない ○息子が全壊の自宅で生活していることが一番心配 ○一番の支えは同じ立場の同世代の人と話すこと ○大阪からありがとう おおきに ○話しができて今日は寝れる
独居で自宅に戻ることが不安な高齢者	帰宅後、子どもが余震でパニックとなり避難所に戻った家族	他の避難者スペースに迷い込むため、日中ほぼ外出している親子	避難所で食事量が増え、活動が低下し体重が増加した方	

◆避難所生活を継続しなければならない様々な理由があることがわかった

◆以前の生活でも健康上や生活上に問題があり、避難生活の長期化により顕在化する方がいる

◆自宅では何とか生活できていたが、避難所の環境や集団生活への適応が困難となる方がいる

◆避難所運営を委託されている各管理者は、避難所運営業務に加え、委託職員の管理など、ほぼ1か月休みなく活動（24H入退室管理、清掃、換気、物資管理、避難者の相談対応、他）管理者より、避難者への対応や、感染症発生時の対応など不安の相談を受けた

◆現段階でも避難所への各チームの訪問が複数あり、避難者に支援疲れがみられた



大阪府保健師等チーム10班の活動 ④避難所支援

トヨオカ地建アリーナ避難所「模様替え&大掃除大作戦」

＊約180名の避難者の居住スペースを一斉リニューアル

＊段ボールによる仕切りからテントによるスペース確保、段ボールベッド入替

＊大阪府は3班、16名を日赤、DWAT、YMCA、学生ボランティアと担当
途中、抗がん剤治療中の発熱者の受診調整（説得）同行を実施

＊他の班では移動の了承を得るための説明が続いていたり、
完成後に「トイレが近いほうがいい」と希望がでていた

◆避難者のゾーニングは重要。初期からルールを作り応することが望ましい

◆段ボールベッドの耐久性は差がある。特に雨、湿気に弱い

◆テント設営により、プライバシーは確保できるが、見通しが悪く、
体調不良者をどのように発見するかが課題

◆テント入口に段差があり、慣れるまで転倒のリスクが高まる

【スケジュール】

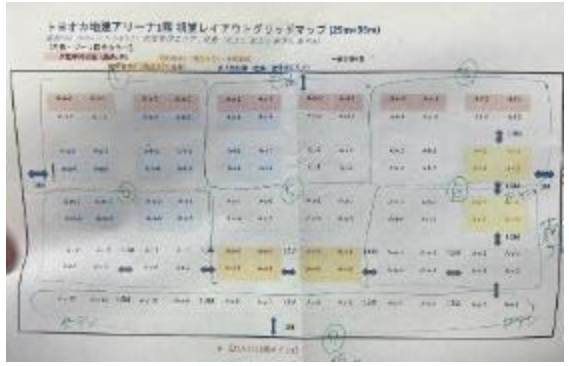
9時	通常ミーティング
9時 30分	支援者ミーティング グループ分け リーダー決め
10時	スタート ①避難者への説明、同意 ②区画、間仕切り導入 ③テント組立て ④段ボールベッド組立、搬入 ⑤避難者案内　荷物搬入 ⑥寝具配布 （マットレス・シーツ） ⑦番地決定　名札配り
15時	終了目標

【スタッフ総勢97名】

参加チーム	人
日赤	23
避難所生活支援T	5
JRAT	4
DWAT	5
JMAT	4
病院看護師	4
八代市保健師	2
保健師等チーム	12
学生ボランティア	9
個人ボランティア	3
YMCA（避難所管理）	7
その他団体	9









活動中、10班や他の保健師チームと話し合った課題

保健師活動

◆避難所以外の車中泊、在宅避難者への対応
◆家庭訪問の対象者、訪問時期
◆避難生活における要支援者の定義
◆保健師等チーム内での活動の統括、調整
◆支援チーム撤退後の避難所支援、要支援者支援
◆平時の保健師活動の再開のタイミング

避難所

◆避難所のゾーニング、プライバシー確保
◆夏の避難所の環境調整、食中毒・熱中症対策
◆感染対策や体調不良者の対応
◆避難所での生活が長期化することでのストレス
◆食品や生活物資の行政による確保、提供
◆集約化には住宅の補修、確保以外にも丁寧な支援が必須

他の支援チームとの連携

◆フェーズに応じた活動方針、支援目標の共有
◆避難所訪問についての調整、指導基準の共有
◆要支援者の定義の共有
◆会議記録、各チームの活動状況の共有
◆活動終了に向けての引継ぎ方法

支援活動や要支援者の情報共有

◆定例会議や活動経過、活動方針などの全体像の共有
◆各支援チームの避難所訪問予定、履歴の共有
◆各避難所の相談対応情報、課題等
◆要支援者リスト、支援状況
◆定例会議、紙記録だけでなくデータでの共有が必須

おわりに～活動を経験しての学び～

- 災害の種別や発生時期により、避難所の環境整備や支援チームの活動時の必要物品が異なる
  ➡フェーズや最終的な復旧、復興時の生活を意識しながら、
  必要な対策を皆で考え、連携しながら支援活動を行う（平時の業務と変わらない）
- 在宅支援（家庭訪問対象や時期）をどう行うのか、予め検討、準備しておくことが必要
- フェーズにより変化する要支援者の定義を、支援チーム間で確認、共通認識を持つことが必要
- 支援チーム間の連携、特に、避難所巡回をどのように計画するのか、支援チーム間の調整が必要
- 多数の保健師等チームが活動する場合は、保健師等チームの中で活動を調整、取りまとめるチームが必要
- 避難が長期化することで、避難所における感染対策、プライバシー確保、物資支援のあり方、支援者疲れ等、
  支援チーム間で避難所や避難生活上の課題について共通認識を持ち連携した支援を行うことが必要
- 支援チーム間の活動調整や要支援者の支援状況を共有する（重複した支援を防ぐ）には、日々の会議や
  紙媒体での管理のみでは限界➡支援チーム間で共有できる「活動調整」「要支援者台帳」システムが必要
- 支援活動の後半では、派遣予定の変更や、現地でも予定外の活動が求められる
  ➡メンバー全員で共有、相談しながら、安全第一に臨機応変に対応していくことが必要
  ➡派遣へのご理解ご協力、後方支援により安心して活動ができることに感謝！

今回の貴重な経験を通して得た学びを組織内で共有、平時の取組みを一歩ずつ進めていくことが必要